

区民会議・企画部会（第1回）・摘録

日 時 平成18年9月22日（金） 14時～16時

場 所 宮前区役所第2会議室

出席者 小林委員（部会長）、永野委員、川西委員、浅野委員、鈴木（恵）委員、目代委員、渡辺委員
事務局：総務企画課企画調整担当主幹、同主査

確認事項

「平成17年度魅力ある区づくり推進事業評価」及び「平成19年度協働推進事業計画案」について冒頭、企画主幹が資料1、2により説明した。

部会長 「平成17年度魅力ある区づくり推進事業評価一覧」については、例年、不要額が1,000万円以上となっている中で、平成17年度は300万円程度に止まっており、概ね順調に消化できたのではないかと。

渡辺委員 平成17年度事業では区庁舎改修工事が目立つが、そもそも、そのような内容に対し協働推進事業費を充てていいのかが、疑問である。

永野委員 事業局（本庁）予算により区が事業を行っているものがあるが、その部分の数字が見えてこない。そのような事業局予算と協働推進事業という区独自予算の両方が分かるようにしてほしい。また、「魅力」から「協働」に名称変更した趣旨からも、区民の意見が反映された事業内容とすべきだ。

鈴木委員 平成19年度事業については、子育て事業が目立つ一方で、高齢者関連は1つもなく残念だ。介護保険制度が施行され、地域で取り組むべき高齢者の課題が増えている中で、せめて1つくらいは事業化してほしい。

川西委員 1のBGM配信事業では、「区民へのアンケート調査をしている。」と資料にあるが、どのような内容なのか？

また、何故、9のHP支援事業の対象を区町連に限定しているのか？

事業化のプロセスとして、区民ニーズや必要性を把握・整理した上で事業計画を立て、区民からの評価を踏まえて、次年度予算要求をするべきだ。平成19年度では市民活動団体への支援事業関連が10だけだが、もっと、支援事業を増やしてもいいのではないかと。

企画主幹 1のアンケートについては、「混雑している場所では音が聞こえない」などの意見があった。今年度から、四季に合わせて楽曲を変更したり、市民の方に曲目をお知らせするなど、色々工夫をしている。

9については、花の台、稗原以外の町内会・自治会はHPを持っておらず、電子ツールにより内外に情報発信する方法も必要と考えて、支援することにした。

市のルールとして、補助・助成金には制約がある。その中で、市民活動団体に直接助成しているのは7区の中で宮前区だけである。今後、協働推進事業として、どのような活動に対して支援・助成すべきかを議論していかなければならない。

また、市役所の予算編成作業が夏にスタートするため、このスケジュールに合わせて区民会議を運営し、区民会議の意見として予算に反映させるべきものがあれば予算要求するというのが本来のやり方だと思う。今年度については、10月に開催される第2回区民会議において意見がまとまれば、平成19年度予算要求に盛り込むことも可能である。

浅野委員 この一覧表に記載された事業以外にも、事業局予算で区が事業執行しているものがある。また、例えば、BGM配信事業のように協働推進事業として対応しにくいと思われるものが、一覧表の中に含まれている。

部会長 友好都市交流事業については、参加した区民等から直接話を聞いて、発展性があるのかを見極め、存廃を判断すべきだ。この場で勝手に良い悪いを判断するのではなく、区民の意見を聞きながらやるべき。

企画主幹 ご指摘のとおり、一覧表の事業以外にも事業局予算で区が事業を行っているものがある。これについては、来年度事業の「事業概要発行」により、区民に対し周知していきたい。

また、友好都市交流事業については、市民主体の交流にシフトさせていくことで両市の認識が共通している。今後、行政としてその仕掛けづくりを検討していきたい。

川西委員 事業計画の策定にあたっては、企画段階から区民を参画させ、区民に広く知らしめた上で、その意見を集約し、評価した結果を反映させる方法をとるべきだ。

浅野委員 そもそも、区民または団体という相手があって、区とともに事業を推進するというのが「協働」の趣旨である。要望、計画、実行などどこかの段階で区民が参加していれば「協働事業」ということになるが、行政単独では協働事業ではないと思う。

渡辺委員 HP支援事業については、団塊の世代が地域に戻る時期を迎えるが、その人たちは企業でPCを使ってきたと思うので、町内会で電子情報発信ツールが整備され、その人たちの地域活動への参加意識が高まればいいと思っている。

目代委員 冊子「とことこ」の作成では、区民自らが足を使って施設状況を把握した。区民向けの冊子を作成する際には、区民が参加することが大事である。

永野委員 本来、バリアフリー事業は、法律に基づき事業局予算で改修等の事業を実施すべきものである。予算がないからといって区独自予算に紛れ込ませている感がある。

鈴木委員 佐久市は高齢者福祉で先駆的な事業活動を行っているが、この事例を私たちの活動の参考にしたという経験がある。友好都市は、使い方次第でいくらでも有効なものになる。

また、冊子の作成については、区民にとって必要な情報を的確に掲載するために、積極的に区民を参加させて意見を聞くべきだ。

川西委員 以前、区民会議の意見が予算要求に反映されなければ意味がないと申し上げた。事業の策定にあたっては、資料4のようなニーズ・必要性が示された図面を活用し、どの部分に当てまるのか体系立てて進めるべきだ。その中で、重複している事業、不要な事業、不足している事業などが見えってくる。

企画主幹 来年度以降からは、予算編成スケジュールを勘案して、区民会議を開催していきたいと考えている。

協働事業については、「魅力」から「協働」に移行した過渡期にあつて、即時に廃止することができない事情もある。「協働」の趣旨に合わせて廃止・変更する事業などを整理して、本来の「協働」にシフトしていきたい。

バリアフリー事業については、法律に基づく改修工事ではなく、路面が滑りやすく危険なため施工したものである。段差の解消などはバリアフリー事業として事業局予算で実施するべきものと認識している。

部会長 来年度予算要求への意見反映については、まだギリギリ間に合う時期なので、10月の区民会議において委員から具体的な意見を出してほしい。また、今年度予算の契約差金が生じた場合にも、区民会議での意見が反映されるよう求めていく。

永野委員 行政だけが行った場合に把握できない情報が、市民活動団体であれば得られることがある。したがって、まちづくり推進事業のように、市民活動に対して支援・助成する事業を増やすべきだと考える。

第2回区民会議の議事運営について

部会長 次回の区民会議において各部会から報告することになる。企画部会は、「平成17年度事業評価」及び「来年度協働推進事業案」に対する意見・要望については永野委員から、また、区民会議の審議課題の選定については川西委員から、それぞれ報告してほしい。

高齢者福祉部会は鈴木委員から、子育て部会は目代委員から報告することにした。

部会長 新たに「宮前区らしいまちづくり(グランドデザイン)」に係る専門部会を立ち上げることについてはいかがか。

委員全員 了承。

部会長 では、その専門部会の名称は、おのおの持帰り考えてほしい。事務局も他区を参考にしながら考えてほしい。

この専門部会の進め方としては、区づくりプラン、都市マスタープラン、まちづくり協議会など既存の計画や議論の内容を基に検討し、不足するものがあれば追加するという方法としたい。これについては次回の区民会議において提案したい。

- 部会長** 高齢者福祉部会と子育て部会はどんな進捗状況となっているのか。
- 鈴木委員** 高齢者福祉部会は、前回の会議でキーワードが出されたが、まだ材料が足りないと感じているので、9月25日開催の部会においてもう少し委員の意見を聞いて、方向性を出したいと考えている。
- 目代委員** 子育て部会は、10月2日開催の部会で、保育園長や保健師を招き、支援する側として現場にいる人の声を聞くことになっている。そこで、さらに課題が浮き彫りになると思う。

テーマ「防災」について

- 部会長** 防災については、どんな資料を基に、どのように議論していくべきか。
- 永野委員** 自治会等が地域でどのように機能しているのかが分かる資料をみたい。
- 川西委員** 昨年に地域教育会議において、防災に関するアンケート調査を実施したが、その中で備品の保有状況や町会長や学校長のコメントも具体的に示されているので、地域の実情を把握する上でかなり参考になると思う。
- 部会長** 協議にあたっては、委員として同じレベルの知識や情報を持ち合わせることが非常に大切である。地域教育会議の資料を活用したい。
- 企画主幹** 資料として、区別の地域防災計画の進捗状況、地域防災計画と地域独自の行動マニュアルとの関連性、避難所運営会議の状況などをできる範囲で示したい。
- 鈴木委員** 高齢者等の災害弱者に対する取組が遅れている状況である。現在、事業局で検討しているようなので、その資料がみたい。地域ケア会議が、災害時に災害弱者を把握することになっているが、様々な行政機関や団体が重複して情報を把握していると考えられるため、統一的に把握するのが望ましい。
- 永野委員** 個人情報保護の観点もあり、また、行政機関によって把握すべき情報にレベル差があるので簡単ではないと思う。
- 企画主幹** 災害弱者に対する取組については、現在、事業局が検討中であるが、次回の区民会議の中で示せる状況にはない。
- 川西委員** 区民会議の参与である議員から意見を聞くことはしないのか。最終的には区独自の条例を制定すべきだと個人的には考えているが、法律や条例については議員が詳しい。
- 部会長** 例えば、児童相談所の情報など多くの情報を議員は持っている。時間があれば議員から話を聞きたい。